

学燈 *gakutou*

【第 5 号】



院生が紹介する「山口大学教職大学院の授業」 ～後期授業を中心に～

【学校経営コース】

◆◆教育の制度と政策◆◆ (佐々木司先生・静屋 智先生)

授業では、教育政策の今日的動向を学び、各施策や事業の目的や内容、課題等を理解するとともに、我が国や諸外国、県、市町村レベルにおける政策・施策を比較考察しながら、それらを現場で応用する力を形成していきます。学校を中心とする教育制度の変遷を学び、ビデオ教材、論文、国や県などの教育施策に関する文献等を利用しつつ、教育の制度及び施策の動向を理解していきました。特に、諸外国との比較考察を通して、日本の教育をアウトサイダーとして見つめ直すことで、そのよさや改善点、これからの方向性など深く考え議論することができました。そして、その学びを生かし、これから院生自身が制度改革案、政策提言案を作成し、発表し合っ、お互いにそれを検討・改善していきます。

【教育実践開発コース】

◆◆授業デザイン総合演習◆◆ (栗田克弘 先生 他)



この授業のねらいは、児童生徒の実態を考慮して既習事項や日常生活と関連づけた学習指導を目指し、授業実践力を高めることです。授業では、院生がそれぞれの実習校の実態を踏まえて授業を計画したり、模擬授業をしたりしました。院生は、小学校から高校まで様々な校種の教員を目指しており、専門とする分野や教科も多様です。そのため、各校種における指導の特徴や教科の系統性を把握するなど、指導上のポイントについて学びを深めるだけでなく、異校種間の連携や他教科とのつながりにも目を向け、新たな視点で授業をとらえ直すことができました。

特に印象的だったのは、子どもたちの興味・関心を引き出し、学習意欲を高めるための指導方法と、子どもたち自身が学習内容を系統立てて習得し、既習事項や日常生活と関連付けて課題解決を図る工夫についてです。授業では、子どもにとって身近なものを取り入れ、楽しみながら知的好奇心を高める授業づくりについて協議しました。この時、積極的に言語活動を取り入れ、子どもが考えたことや感じたことを表現させたり、ふり返りを書かせたりすることも効果的だと感じました。また、子どもたちが学んだことを未知の学びに活用したり、自身の経験と結びつけたりすることができるような指導についても探求していきたいです。

授業を通して、校種や教科の枠組みを超えた授業の根幹や指導の普遍性をとらえ、自身の教科に活かすことを学びました。これらをもとに自身の授業について省察し、子どもたちが学びの系統性や日常生活との関連性をとらえることができるような授業づくりに励みたいと考えています。

【学校経営コース・教育実践開発コース】 ※合同授業

◆◆教職員研修開発実践演習（経営コース）◆◆

◆◆教職員研修開発基礎（実践コース）◆◆（前原隆志 先生・藤上真弓 先生）

授業では、校内研修の事例分析や校内研修を深化・活性化するための講義、演習を通して、校内研修の意義に対する理解を深めるとともに、抱える課題を把握し、その計画と運営を進めるために必要な専門的知識・技能の修得・形成を図りました。

後期前半は、各学校が実施している「全国学力・学習状況調査」について、その分析の視点や、校内での共有、指導改善の視点で演習を行いました。また、各院生の原籍校での取組事例を紹介し、共有することができ、とても参考になりました。

後期後半には、実際の国立教育政策研究所の研究指定の計画書を作成、発表することを通して、研究指定の意義や目的、メリット等について、子どもを共に育てる立場となる行政・地域住民・他の校種の教員、同僚など自分とは異なる視点からもとらえることができました。また、それぞれの立場の人々と目指すところを共有し、研究を推進していくための方途を摸索する実践的な学びとなりました。

◆◆道徳教育の理論と実践A（経営コース）◆◆

◆◆道徳教育の理論と実践B（実践コース）◆◆（松岡敬興 先生）

「特別の教科 道徳」は、小学校では平成30年度、中学校では平成31年度から全面実施されます。道徳科の授業では、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れた指導方法や評価の工夫が求められます。本授業では、これらの道徳教育をめぐる今日的課題や学習のポイントについての知識・技能の習得をめざした学習プログラムが用意されていました。

一例を挙げると、次期学習指導要領で重視される「考え議論する道徳」の指導方法と評価のあり方について事例検討を通じて学習を深めました。また、学校における道徳教育が抱える諸問題を取りあげ、院生間でその実態について情報交換を行い、改善をめざした議論を通して、正しく理解することに努めました。

教材開発では、「役割演技」、「望ましい人間関係」、「葛藤資料」などに着目し、その特長を整理し、院生がグループとなって学習指導案の作成や模擬授業を行いました。これらを通して、指導に必要な知識や技能を高めることができました。

◆◆知識基盤社会における情報活用の理論と実践A◆◆

◆◆知識基盤社会における情報活用の理論と実践B◆◆

（鷹岡 亮 先生・阿濱茂樹 先生）

この授業では、情報社会といわれる現在に生きる子どもたちに必要とされる情報教育について理解を深めることができました。今、学校現場では様々なICT機器の導入が進められているが、多くの教員が、ICTを用いるという経験が不足しており、十分に活用できていないという現状が見えてきました。そこで、どのように活用できるのか、そして、いかに実践へとつなげていくのか、その方法を知ることが重要であると見えてきました。

また、AIなどの技術の発展が、今後、教育に与える影響はどういったことであるのかを学ぶことは非常に心躍らされました。現段階で予想しきれない未来の可能性を考えることで、広い視野が持て、対応力も身についたのではないかと感じています。

加えて、最近よく問題に取り上げられるSNSや著作権等についても理解を深めることができました。教員自身も子どもたちも決してつながりを断つことができないほど、生活と一体化している多くの情報を、適切に使うとは、いったいどういうことなのか知ることができました。